

タイトル「**2023年度大学院危機管理学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院危機管理学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー							
科目名	研究倫理						
担当教員	永沼 淳子,先崎 彰容,木村 敦,宮脇 健						
対象学年	1年,2年	開講学期	前期				
曜日・時限	土 1						
講義室		単位区分	必				
授業形態	講義	単位数	2				
科目大分類	基盤						
科目中分類	危機の大学院修士課程カテゴリ						
科目小分類	基盤						
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード-学習のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1【意欲・経験・適正】災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察(50%) DP2【学識・専門技能】災害、テロ、国際紛争等、複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための、法学、政治学、国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能(25%) DP4【主体性・多様性・協働性】多様な価値観や立場を尊重しつつ、自らの明確な考えをもとに、他者とのコミュニケーションを確立する能力(25%)						
教員の実務経験	特になし。						
成績ターゲット区分	特になし。						
科目概要・キーワード	本講義では、危機管理学の研究を進めるうえで不可欠な、学術研究における公正の確保と責任ある研究活動の在り方について、基礎的な知識を修得する。研究者が担う基本的な責任の意義を、ねつ造、改ざん、盗用、利益相反ほか研究倫理にかかわる様々な事例、論点を踏まえ、異なる学問的バックグラウンドの知見から多角的に理解するために、オムニバス形式とする。これらの研究プロセスを通じて、意欲・経験・適正の資質を確認するとともに、学識・専門技能等の汎用的能力を開発することを目的とする。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンシに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (9 永沼 淳子/3回) 人文科学における研究公正について教授する。 (13 宮脇 健/4回) 研究計画のあり方、研究対象者保護の基本について教授する。 (12 木村 敦/4回) 研究ノートとデータの管理、オーサiershipと出版の倫理、共同研究について教授する。 (10 先崎 彰容/4回) 現代社会における科学や技術の意義、研究倫理の基本姿勢を教授する。 ■キーワード：研究倫理、研究計画書、研究ノート、研究対象者保護、オーサiership						
授業の趣旨	■副題 自立した研究者としての行動規範と研究倫理を学ぶ ■授業の目的 大学院生が研究活動を行うために、事前に知っておかなければならない行動規範と研究倫理について理解することを目的とする。 ■授業のポイント 学問とは何か、学問に臨む態度、学問をする際の倫理とは何か、という根源的な問題から始まり、人文社会科学分野の研究倫理について学修し、データ管理・オーサiershipなど共同研究の倫理的ルールや、現代的課題である研究対象者保護について理解したうえで、研究計画書や研究ノートを執筆することができる。						
総合到達目標	■危機管理学及び法学に関する研究活動を論理的・批判的に考究することができる。 ・大学院生として研究活動に求められる行動規範と研究倫理を阻害する研究不正行為について認識することができる（第1回～15回）。 ■危機管理学と法学に関する研究倫理について科学的な手法によって分析することができる。 ・公正な研究活動を行うために、データ管理・研究対象者保護の基本的知識を学修したうえで、それらを適切に保管・利用することができる（第1回～15回）。 ■危機管理学と法学に関する成果を発表するための規範を論理的に解釈し、その成果を適切に表現することができる。 ・研究活動を行うための行為規範と研究不正行為を理解し、正しい研究成果を出すためにそれらを活用し、研究計画書や研究ノート、論説を執筆することができる。（第1回～15回）。						
成績評価方法	■授業参加度(15回) 60%(DP1,DP2,DP4) (評価の観点)学術的な姿勢、予習・授業中の応答などで評価します。 (フィードバックの方法)授業中の質疑を通して、必要に応じてコメントします。 ■レポートまたは報告(4回)40%(DP1,DP2,DP4) (評価の観点)学術研究としての水準、レポート・プレゼンテーションの完成度を評価します。 (フィードバックの方法)講評を行います。						
履修条件	特になし。						
履修上の注意点	特になし。						
授業内容	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>①授業テーマ 人文社会科学における研究倫理</td></tr></table>	回	内容	1	①授業テーマ 人文社会科学における研究倫理		
回	内容						
1	①授業テーマ 人文社会科学における研究倫理						

	②授業概要 人文社会科学分野における研究不正行為について概観することで、受講生が次回以降の授業準備を具体的に行えるようにする（DP-1、DP-2）。 ③予習（120分） シラバスの内容を確認し、文部科学省のHPから「研究活動における不正行為への対応等」の「ガイドライン概要」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、人文社会科学分野の研究不正行為の概観についてまとめる。
2	①授業テーマ 人文社会科学分野における不正行為の事例研究 ②授業概要 近年、国内で確認された人文社会科学分野における研究不正の事例を研究することで、研究者及び大学院生が行う学術研究における公正と責任について説明できるようになる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術会議のHPから「科学研究における健全性の向上について」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、人文社会科学分野の研究をするうえで、大学院生として持つべき責任についてまとめる。
3	①授業テーマ 人文社会科学分野の研究不正防止 ②授業概要 研究倫理教育、メンター、ピアレビューなど、研究過程で不正行為を防止する仕組みを理解することで、人文社会科学分野における研究の在り方を説明できる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 文部科学省HPから「我が国の研究倫理教育等に関する実態調査・分析業務」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、人文社会科学分野の研究倫理についてまとめる。
4	①授業テーマ 研究計画の作成と研究倫理 ②授業概要 研究計画の作成を行う際に、研究対象が人である場合にはデータと取り扱い、配慮が必要になってくる。そのため研究計画の立てる段階での人文社会科学分野に研究倫理についての前提となる知識を先行研究から学ぶことで、人文社会科学分野における研究の在り方を説明できる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術振興会 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や授業中に説明した事例を確認して研究計画で倫理的に配慮する点についてまとめる。
5	①授業テーマ 研究計画の作成と研究倫理 ②授業概要 研究計画の作成を行う際に、研究対象が人である場合にはデータと取り扱い、配慮が必要になってくる。そのため研究計画の立てる段階での人文社会科学分野に研究倫理について書き方を先行研究から学ぶことで、人文社会科学分野における研究の在り方を説明できる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術振興会 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や授業中に説明した事例を確認して研究計画で倫理的に配慮する点についてまとめる。
6	①授業テーマ 研究計画の作成と研究対象者保護について ②授業概要 研究計画の作成を行う際に、研究対象が人である場合にはデータと取り扱い、配慮が必要になってくる。特に計画を実施する段階での対象者に対する説明、データの管理など様々な問題が発生する。そこで、研究対象者保護について人文社会科学分野の事例を中心に学ぶことで、人文社会科学分野における研究の在り方を説明できる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術振興会 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や授業中に説明した事例を確認して研究計画で倫理的に配慮する点についてまとめる。
7	①授業テーマ 研究計画の作成と研究対象者保護について ②授業概要 研究計画の作成を行う際に、研究対象が人である場合にはデータと取り扱い、配慮が必要になってくる。特に計画を実施する段階での対象者に対する説明、データの管理など様々な問題が発生する。そこで、研究対象者保護について人文社会科学分野の事例を中心に学ぶことで、人文社会科学分野における研究の在り方を説明できる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術振興会 「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や授業中に説明した事例を確認して研究計画で倫理的に配慮する点についてまとめる。
8	①授業テーマ 研究データの管理① ②授業概要 研究倫理における研究データ管理の必要性について、研究倫理上問題となった事例や具体的なデータ管理の方法を挙げながら説明することができる（DP-1、DP-2）。 ③予習（120分） 研究データ管理に関する自身の取組みについて、ノートにまとめてくる。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、学修内容についてまとめ直す。その上で、「研究データ管理」に関する説明について研究書籍等を調べて一読するとともに、それらの文献情報をノートにまとめる。
9	①授業テーマ 研究データの管理② ②授業概要 研究倫理における研究データ管理に関して、研究ノートの記録と管理方法について具体的に説明することができる（DP-1、DP-2）。

	③予習（120分） 「研究ノート」（研究記録用ノート・実験ノート）について複数の商品を比較し、自分の研究に合ったものを入手する。そして、自身の研究状況を記入する。すでに実施している場合はこれまでの記入内容を一読するとともに、自身が持っているノートのほかにもどのような商品があるかを調べる。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、学修内容についてまとめ直す。その上で、「研究ノート」に関する説明について研究書籍等を調べて一読するとともに、それらの文献情報をノートにまとめる。
10	①授業テーマ 研究のオーサiership ②授業概要 研究成果の発表に際して倫理上の問題となりやすい「オーサiership」について、ギフト/ゴースト・オーサiershipなどの問題や、責任ある研究発表を行う上でのオーサiershipの考え方について説明することができる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術振興会『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』の「SECTION IV 研究成果を発表する」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、学修内容についてまとめ直す。その上で、「オーサiership」に関する説明について研究書籍等を調べて一読するとともに、それらの文献情報をノートにまとめる。
11	①授業テーマ 共同研究における研究倫理 ②授業概要 共同研究における研究倫理に関して、主として他機関共同研究、秘密保持、利益相反、オーサiershipの観点から公正な手続きについて説明することができる（DP-1、DP-2、DP-4）。 ③予習（120分） 日本学術振興会『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』の「SECTION V 共同研究をどう進めるか」を一読する。 ④復習（120分） 配布資料や講義ノートを確認し、学修内容についてまとめ直す。その上で、「他機関共同研究」、「秘密保持」、「利益相反」に関する説明について研究書籍等を調べて一読するとともに、それらの文献情報をノートにまとめる。
12	①授業テーマ 古典からみた研究倫理①：学問とは何か ②授業概要 「研究倫理」を学ぶにあたり、そもそも学問とは何か、学問をする際の態度、倫理とはどのようなものか、について古典的名著を読むことで考えを深めていく。具体的には、社会学者マックス・ヴェーバー『職業としての学問』（岩波文庫）を読解し、理解を深めていく。（適用ルーブリッカーC1：10%、E1：30%、F1：10%、G1：10%、H1：20%、I3：20%）。全2回で講読する予定の第一回目の講義となる。 ③予習（120分） 教科書『職業としての学問』（マックス・ヴェーバー著、岩波文庫）を購入の上、読解しておくことを求める ④復習（120分）
13	①授業テーマ 古典からみた研究倫理②：学問とは何か ②授業概要 「研究倫理」を学ぶにあたり、そもそも学問とは何か、学問をする際の態度、倫理とはどのようなものか、について古典的名著を読むことで考えを深めていく。具体的には、社会学者マックス・ヴェーバー『職業としての学問』（岩波文庫）を読解し、理解を深めていく。その第二回目が本講義となる。（適用ルーブリッカーC1：10%、E1：30%、F1：10%、G1：10%、H1：20%、I3：20%）。全2回で講読する予定の第二回目の講義となる。 ③予習（120分） 教科書『職業としての学問』（マックス・ヴェーバー著、岩波文庫）を購入の上、読解しておくことを求める。 ④復習（120分）
14	①授業テーマ 古典からみた研究倫理③：学問に対する姿勢を学ぶ ②授業概要 「研究倫理」を学ぶにあたり、そもそも学問とは何か、学問をする際の態度、倫理とはどのようなものか、古典的著作読解後に、その背景的知識を学ぶ。それにより、学問をするとはどのような営為なのか、その真摯さ、奥行き、深さ、時代との格闘を学ぶ。具体的には、社会学者マックス・ヴェーバーに関する入門書、山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』（岩波新書）を読解し、理解を深めていく。（適用ルーブリッカーC1：10%、E1：30%、F1：10%、G1：10%、H1：20%、I3：20%）。全2回で講読する予定の第一回目の講義となる。 ③予習（120分） 教科書『マックス・ヴェーバー入門』（山之内靖著、岩波新書）を購入の上、読解し、分からない用語を調べておくことを求める。 ④復習（120分）
15	①授業テーマ 古典からみた研究倫理④：学問に対する姿勢を学ぶ ②授業概要 「研究倫理」を学ぶにあたり、そもそも学問とは何か、学問をする際の態度、倫理とはどのようなものか、古典的著作読解後に、その背景的知識を学ぶ。それにより、学問をするとはどのような営為なのか、その真摯さ、奥行き、深さ、時代との格闘を学ぶ。具体的には、社会学者マックス・ヴェーバーに関する入門書、山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』（岩波新書）を読解し、理解を深めていく。（適用ルーブリッカーC1：10%、E1：30%、F1：10%、G1：10%、H1：20%、I3：20%）。全2回で講読する予定の第二回目の講義となる。 ③予習（120分） 教科書『マックス・ヴェーバー入門』（山之内靖著、岩波新書）を購入の上、読解し、分からない用語を調べておくことを求める。 ④復習（120分）
関連科目	アカデミック・ライティング&リサーチ
教科書	増井敏克『図解まるわかりセキュリティの仕組み』（翔泳社、2018年）、小向太郎『情報法入門（第4版）デジタル・ネットワークの法律』（NTT出版、2018年） マックス・ヴェーバー『職業としての学問』（岩波文庫、1980年） 山之内靖『マックス・ヴェーバー入門』（岩波新書、1997年）
参考書・参考URL	講義中、適宜紹介します。

連絡先・オフィスアワー	各担当教員がそれぞれの1回目の講義でお知らせします。
研究比率	

